

インフォシス(NYSE: INFY) 2015 年度第 4 四半期および 2015 年度通期の決算を発表

第 4 四半期の売上収益率は、米ドルベースで 1.6%増、実質ベースで 1.9%増

第 4 四半期の営業利益率は 25.5%(第 3 四半期の 24.9%から 0.6%増)

2015 年度通期の売上収益率は、米ドルベースで 9.1%増、実質ベースで 13.3% 増

2016 年度通期の売上収益率は、実質ベースで 11.5%-13.5%増、米ドルベースで 11.8%-13.8% 増の見込み

取締役会は最終配当金 1 株あたり 14.25 ルピーを推奨

バンガロール(インド) 2016 年 4 月 15 日

財務ハイライト

国債財務報告基準(IFRS)に基づく 2015 年度第 4 四半期および通期の連結決算

2015 年度第 4 四半期

- 2015 年度第 4 四半期の売上収益は 24 億 4600 万ドル
前期比成長率は名目ベースで 1.6%、実質ベースで 1.9%
前年比成長率は、名目ベースで 13.3%、実質ベースで 15.0%
- 2015 年度第 4 四半期の営業利益は 6 億 2500 万ドル
前期比成長率は 4.3%
前年比成長率は 12.6%
- 2015 年度第 4 四半期の純利益は 5 億 3300 万ドル
前期比成長率は 1.7%
前年比成長率は 7.0%
- 2015 年度第 4 四半期の 1 株当たりの利益(EPS)は 0.23 ドル
前期比成長率は 1.7%
前年比成長率は 7.0%

2015 年度通期

- 2015 年度通期の売上収益は 95 億ドル 100 万ドル
前年比成長率は名目ベースで 9.1%、実質ベースで 13.3%
- 2015 年度通期の営業利益は 23 億 7500 万ドル
前年比成長率は 5.2%
- 2015 年度通期の純利益は 20 億ドル 5200 万ドル
前年比成長率は 1.9%
- 2015 年度通期の 1 株当たりの利益(EPS)は 0.90 ドル
前年成長率は 1.9%

- 現金および現金等価物、売却可能金融資産、定期預金および国債から成る流動資産総額は、2015 年 12 月 31 日現在 47 億 6500 万ドルおよび 2015 年 3 月 31 日現在 52 億 1400 万ドルであったのに対し、2016 年 3 月 31 日現在 52 億 200 万ドルでした。
- 取締役会は、2015 年度の最終配当金 1 株当たり 14.25 ルピーを提案。これは 1 株当たり最終配当金 0.22 ドル(米ドル・インドルピー為替レート 66.26 換算)に該当します。

「私がインフォシスの CEO に就任してから初めての会計年度に当社が達成した実績を誇りに思います。同時に、私たちの目の前にあるやらなければならない事を考えると、謙虚な気持ちにもならざるを得ません。今年度がスタートした時点では、サービスの概念を完全に変え、インフォシスを改革するための戦略を導入してから 2 四半期しか経っていませんでした。しかし、年が経過すると共に、学習と教育という礎の上でお客様に自動化やイノベーションをもたらすというこの戦略の成果は徐々に見え始め、お客様との関係の有機的な成長や大型契約の獲得率、今まで携わったことの無い戦略的な分野で実行されたプロジェクトの種類などに明らかな成果がありました。私たちのチームが今期、そして今年度に達成したことを誇りに思います。」と、**最高経営責任者ビシャル・シッカ**は述べています。「しかし、心強い結果ではあるものの、これらは未だに過去の指標、これまでの業界のやり方で生まれた指標に基づいたものです。私たちの未来にある世界は全く違う姿をしています。それはデジタル技術により根底から新たに形作られた世界であり、AI 技術やオープン・クラウド・プラットフォームを使い開発されたソリューションですべての企業に優れた価値を創造することや、インテリジェント技術でインフォシス社員全員の力を増幅させること、目的をしっかりと持ったイノベーションを暮らしにもたらすことなどが、私たちが追い求めるべきことでありますが、そういう意味では、私たちは未だにこの旅路の出発点から離れることができていません。」

「従業員の離職率は第 4 四半期にさらに低下し、年間を通じて当社従業員とのつながり強化に努め、世界最高の人材がインフォシスをエキサイティングな場所と感じるようにするための取り組みが反映された結果だと思っています。」と、**最高業務執行責任者 U.B.プラビン・ラオ**は述べています。「大型契約獲得の勢いは今期も衰えることが無く、受注は好調でした。」

「当社の成長軌跡は 2015 年度に改善し、社外のビジネス環境を上手く切り抜けることができました。これからも、安定した収益力ある成長を持続させるために、様々な経営効率化施策に重点的に取り組んで参ります。」と、**最高財務責任者 M.D.ランガナス**は述べています。「当期中はキャッシュフローに力強さがありました。不安定な為替環境にも効果的に対応できました。」

業績見通し*

IFRS に基づく 2016 年度通期の見通し(連結) :

- 売上高の見通しは為替変動を除いた実質ベースで 11.5%~13.5%増*
- 2016 年 3 月 31 日現在の為替レートに基づく US ドルベースでは売上高の見通しは 11.8%~13.8%増**

*換算レート: 豪ドル/US ドル - 0.73、ユーロ/US ドル - 1.10、英ポンド/US ドル - 1.51

**換算レート: 豪ドル/US ドル - 0.77、ユーロ/US ドル - 1.14、英ポンド/US ドル - 1.44

経営陣の異動

Mohit Joshi、Ravi Kumar S、Sandeep Dadlani の 3 名が President(プレジデント)に就任しました。

事業に関するハイライト

当期、当社は従来のサービスに加え新たなサービス、当社のプラットフォームやツールおよびより広範なエコシステムへの投資を通して自動化およびイノベーションの提供戦略において飛躍的な進歩を遂げたことで、既存の顧客関係を深め、とりわけ大規模な契約を多数獲得すると共に、当社にとって全く新しいタイプの戦略プロジェクトを切り開くことが可能となりました。

深い顧客関係の推進と大規模契約の獲得

- 北米の加工食品大手 ConAgra Foods, Inc. は、同社のアプリケーション、インフラおよび情報セキュリティ・システムをサポートする複数年のマネージド・サービス契約の戦略的パートナーに当社を選びました。デザイン・シンキング主導のソリューションは、Panaya およびインフォシス・オートメーション・プラットフォーム(IAP)を利用して、サポート、アップグレードおよびテストに要する顧客の工数削減に資すると共に、イノベーションを推進し、サービス・レベルを高め、運用コストを削減します。
- 当社は、大手公益事業会社 Welsh Water の 400 を超える重要なネットワーク・リンク、業務アプリケーション、サーバーおよびストレージを管理し、同社のデータ・センター設備やサービスの設定、移行および実行を担います。また、同社の社内ネットワーク通信および IP 電話のサービスとインフラを変革、管理します。契約には、仮想化、オペレーティング・システム戦略、データベース・プラットフォームなどを含む同社の IT エコシステムの全プロジェクトの管理が含まれます。

新しいサービス、プラットフォームおよびツールの推進力の拡大

当社のプラットフォームおよびツールに加え Aikido サービスに基づいた新規戦略プロジェクトを引き続き受注してきました。

IIP: IIP を利用した 220 件以上のプロジェクトを完了、AWS での IIP の可用性を発表

当期、当社はアマゾン・ウェブ・サービス・マーケットプレイス(AMS マーケットプレイス)で IIP が利用可能になったことを発表しました。今や企業は柔軟で低コストのクラウド型プラットフォームを利用しながら堅固なデータ・インサイトを迅速に獲得できます。

北米最大手のチョコレート・メーカー Hershey's LLC は、収益を創出する貴重なインサイトを従来型のアナリティクスよりも素早く手に入れたいという理由から、最近、小売店データの分析に AWS 上の IIP を採用しました。

同社は Hadoop ランドスケープを確立し、アナリティクスとビッグ・データの可能性を迅速に拡大する必要がありました。同社と提携することで、当社は 1 週間足らずでランドスケープを確立し、同社のアナリスト向けにデータ・レイクを準備しました。AWS 上のインフォシス・インフォメーション・プラットフォームを使用することで開発が数週間単位で加速されました。

IAP: IAP プロジェクトはあらゆるセグメントで 125 件以上に上り、当期も主要顧客による追加導入が 21 件

Johnson Controls (JCI)は成長の加速とビジネス価値の提供において IT が果たす役割を変革しようとしています。この変革における同社の目標の 1 つが自動化による全社的な効率の推進と向上です。当社は、最先端のエンタープライズ・オートメーション機能を提供するこの取り組みにおいて JCI を支援しています。JCI は、セルフ・サービス、ロボット/補助オートメーション、予測診断および自己回復機能などを含む当社の業界トップのツールやサービスを活用して業務プロセスを自動化します。

Panaya、Skava および EdgeVerve

Panaya および Skava は、それぞれの製品が価値提案の中心となる大手顧客プロジェクトと単独契約の両方で事業の好転が続きました。

- 全世界でディーゼル・エンジンと関連テクノロジーの設計、製造および販売を手がける大手電力系企業 Cummins は同社のブラジルでの Oracle アップグレード・プログラムを実行するパートナーとして当社を選択しま

した。Cummins Brazil の CIO Rosane Rodrigues 氏は、「ブラジルの Oracle インスタンスは現地業務をサポートするために非常に複雑になっています。オブジェクト数は 5,000 を超え、多数の製品ラインに対応し、2,500 人以上の南米ユーザーをサポートしています。主な懸念は業務中断のリスクでした。そこで、Oracle に精通し、ローカライズ要件を理解し、とりわけ最先端のツールを使用することでアップグレード・プロジェクトのリスクを排除する能力を実証できるパートナーを得る必要がありました。プロジェクトの開始に先立ちインフォシスが提示した Panaya ベースの詳細な影響分析を見て、想定される問題とその解決方法をインフォシスがしっかりと把握していると確信できました。同社のアップグレード手法と Panaya などのクラウド・ベースの影響評価ツールを使って、インフォシスはソフトウェアの変更に伴うリスクを最小限に抑えつつプロジェクトを主導しています。」と述べています。

- データ主導型マーケティングとロイヤリティ・アナリティクスのグローバル・リーダーである Aimia Inc. は、同社の多様なプラットフォームやソリューションの製品工学、保守およびサポート・サービスを提供する複数年のマネージド・サービス契約の戦略的パートナーに当社を選びました。Aimia の Operations and Strategic Initiatives 部門 EVP、Liz Graham 氏は次のように述べています。「我社は、オムニチャネル・デジタル・マーケティング・ソリューションの導入にあたり、その敏捷性とテスト・アンド・ラン方式の作業能力の観点から、インフォシスの Skava プラットフォームを選択しました。インフォシスとの素晴らしいパートナーシップと、その他のデジタル・イニシアチブにおける Skava プラットフォームの利用に大いに期待しています。」

当期、EdgeVerve 事業は、さまざまな市場地域で Finacle と Edge 双方の多彩なソリューションで 18 件の契約獲得と 24 件の本稼働を達成し、好調を維持しました。

- Bank Leumi (UK) plc の Director 兼 COO、Lesley Secretan は、「Finacle コーポレート e-バンキングは変化し続けるコーポレート・バンキング要件に対し、近代的で完全な e-バンキング・ソリューションを提供します。当社が Finacle を選択した理由は、追加設定不要の各種機能、高度な機能性、アジャイル導入アプローチと複数のプラットフォームで機能する能力です。世界中の主要銀行と共同で複雑なプロジェクトに取り組んできたインフォシスの Finacle は、長年にわたり市場における豊富な経験を実証してきました。さらに重要なことは、私達は Finacle の見た目や使い勝手が気に入り、導入すれば当行のお客様にも喜ばれると感じたからこそ Finacle を選んだということです。」と述べています。

今や当社のさまざまな顧客のあらゆるプロジェクトに広がった設計主導のサービス

第 4 四半期は、世界中で当社顧客によるデザイン・シンキングの採用が飛躍的に増加しました。これまでに実施したデザイン・シンキング・ワークショップは 225 回を超え、当期さまざまな業界で実施した設計主導の変革プログラムは 10 件以上に上ります。当社のコンサルタントと協力して戦略的な経営革新のアイデアを練り、イニシアチブを実行する顧客がますます増えていることは大きな進展です。

イノベーター文化の構築

Zero Distance: インフォシスがベースライン化および管理するプロジェクトの 95% 以上をカバー

あらゆるプロジェクトにおいてイノベーションを推進する当社のプログラム Zero Distance は、全社員にイノベーターになるための力を与え、今ではほぼすべてのプロジェクトをカバーして卓越したプロジェクト管理を達成するための新たな方法を確立しつつあります。

ABN AMRO 銀行 Enterprise Content Management IT Change Manager の Jeroen Korstanje 氏は次のように述べています。「当行とインフォシスの提携は 10 年以上にわたります。ここ 3 年間は真のパートナーとして両社間のパートナーシップはこれまで以上に成熟度を増しています。インフォシス社内での Zero Distance およびデザイン・シンキング活動はパートナーシップに付加価値をもたらしています。業務をシンプルに、できる限り自動化する機会を積極的に検討し、既に多数の改善を実施してきました。このパートナーシップを更に強化するために、エンタープライズ・コンテンツ管理の領域の全スタッフに対し Zero Distance およびデザイン・シンキングのトレーニングを共同で実施しました。こうした取り組みが当行全体に更なる価値をもたらすと確信しています。」

エコシステムを通して事業範囲を拡大

当期、当社は、データ・ディスカバリーおよびデータ・ガバナンス・ソフトウェアの大手プロバイダーである Waterline Data Science に対する 4 百万 US ドルの投資を発表しました。この投資は、当社のプラットフォームや提供サービス全体にデータ・サイエンス・ソリューションを取り入れるための当社の取り組みと、顧客のビッグ・データ資産から顧客にビジネス価値を提供するためのコミットメントを証明するものです。

受賞および評価

- HfS の Research Blueprint のサービス経済活動におけるデザイン・シンキング部門において「Leader in the Winner's Circle – Excellent at Innovation and Execution」に位置付けられました。
- American Council for Technology - Industry Advisory Council (ACT-IAC) はインフォシスの ReachOut ソリューションを 2016 年の Igniting Innovation Awards の最終選考上位 40 候補に選出しました。インフォシスの ReachOut はデバイスに依存しないウェブ・ベースのアプリケーションで、困っている人を支援やリソースにリアルタイムで結び付けます。
- インフォシスの Finacle は Ovum の欧州 Core Banking Decision Matrix で「Market Leader」に位置付けられました。
- インフォシスの Finacle は 2016 年の IBS Sales League で販売数トップのソリューションとしての評価を獲得しました。
- インフォシスの Finacle は 2016 年 Private Banking Middle East 授賞式で、中東におけるミドル／バック・オフィスおよびイスラム・バンキング最優秀テクノロジー・プロバイダー部門の Best Innovations in Digital Initiative を受賞しました。
- Tableau GSI 年間パートナー、日立データ・システム年間イノベーション・パートナーに選ばれました。

事業外活動

2016 年度は、インフォシスの寄付した 216 クロー (3,300 万ドル) 超によって、医療、教育、文化、貧困救済、農村開発に関連したさまざまなプロジェクトが実施されました。またインフォシスは、長期的なエコシステムの持続可能性を目指し、チェンナイの水害救済や環境維持、天然資源保全などの複数のイニシアチブに 86 クロー (1,300 万ドル) を支出しています。

米国インフォシス基金は、デジタル化が進む将来に向けて学生に万全の準備をさせるという使命の一環として、地元コミュニティとの関係構築およびコンピューター・サイエンス関連プログラムへの投資を続けてきました。同基金は、NSF と共同で、教師のコンピューター・サイエンスの専門能力育成をサポートするために百万ドルの助成金提供を発表しました。このコラボレーションは 2,000 人もの教師にコンピューター・サイエンスの理解を深める機会を提供します。

当社について

インフォシスはビジネス・コンサルティング、テクノロジー、次世代サービスのグローバル・リーダーです。当社は 50 か国以上の国々のお客様が最新のビジネス・トレンドよりも一歩先を進み、競合他社をしのぐ活躍ができるように支援を提供します。また、戦略的インサイトと卓越した実行力を融合させた革新的なソリューションを共同創造することで、お客様が移り変わりの激しい世界に対応し、成長できるようにサポートします。

www.infosys.com を訪れ、年商 95 億ドル、従業員数 194,000 人以上のインフォシス (NYSE: INFY) がどのように価値を生み出すための新たな手段を創り出しながら企業の刷新を支援しているかをお確かめください。

セーフハーバー条項

本プレス・リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2014 年会計年度(2015 年 3 月 31 日付)年次報告書(Form 20-F)を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合があります。また、本プレス・リリースは 2016 年 4 月 15 日付けであり、ここに記載された将来の展望は、本日現在において妥当と思われる想定に基づくものであることをご了承ください。当社は、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ

投資関連

Sandeep Mahindroo
+91 80 3980 1018
Sandeep_Mahindroo@infosys.com

メディア関連

Sarah Vanita Gideon, India
+91 80 4156 3373
Sarah_Gideon@infosys.com

Pilar Elvira Wolfsteller
+1 510 944 4596
Pilar.Wolfsteller@infosys.com

インフォシスリミテッドと子会社

無監査連結中間貸借対照表

(100 万ドル、株式デ-

ータを除く)

	2016 年 3 月 31 日 付	2015 年 3 月 31 日 付
資産		
流動資産		
現金および現金等価	4,935	4,859
売却可能金融資産	11	140
売掛金	1,710	1,554
未請求収益	457	455
前払費用とその他流動資産	672	527
金融派生商品	17	16
流動資産合計	7,802	7,551
非流動資産		
有形固定資産	1,589	1,460
のれん	568	495
無形資産	149	102
関連会社に対する投資	16	15
売却可能金融資産	273	215
繰延税金資産	81	85
所得税金資産	789	654
その他非流動資産	111	38
非流動資産合計	3,576	3,064
資産合計	11,378	10,615
負債および資本		
流動負債		
買掛金	58	22
金融派生商品	1	-
未払法人所得税	515	451
前受金	4	4
前受収益	201	168
従業員給付債務	202	171
引当金	77	77
その他流動負債	940	927
流動負債合計	1,998	1,820
非流動負債		
繰延法人所得税負債	39	25
その他非流動負債	17	8
負債合計	2,054	1,853
資本		
株式資本 額面価格 5 ルピー (0.16 ドル)		
授権株式 2,400,000,000 株 (1,200,000,000 株)		
発行済み株式 2,285,621,088 株 (1,142,805,132 株)		
自己株式 11,323,576 株 (5,667,200 株) (2014 年度)	199	109
資本剰余金	570	659
利益剰余金	11,083	10,090
その他剰余金	-	-
その他の資本構成要素	(2,528)	(2,096)
親会社の所有者に帰属する持分合計	9,324	8,762
非支配持分	-	-
資本合計	9,324	8,762
負債および資本の合計	11,378	10,615

インフォシスリミテッドと子会社

無監査連結中間包括利益計算書

(100 万ドル、株式データ、1 株当たり純資産デー

タを除く)

	2015 年度 第 4 四半期	2014 年度 第 4 四半期	2015 年度 通期	2014 年度 通期
売上収益	2,446	2,159	9,501	8,711
売上原価	1,516	1,317	5,950	5,374
売上総利益	930	842	3,551	3,337
営業費用:				
販売費	134	118	522	480
管理費	171	169	654	599
営業費用合計	305	287	1,176	1,079
営業利益	625	555	2,375	2,258
営業外収益	114	141	476	560
関連会社の利益(損失)の分配	-	-	-	-
税引前利益	739	696	2,851	2,818
法人所得税費用	206	198	799	805
純利益	533	498	2,052	2,013
税引後利益				
その他の包括利益				
損益に組み替えられない項目	-	(2)	(2)	(8)
損益に組み替えられる項目				
売却可能金融資産の公正価値の変動	3	(2)	6	14
海外事業の為替換算差額	11	53	(436)	(375)
その他の包括利益合計(税引後)	14	49	(432)	(369)
包括利益合計	547	547	1,620	1,644
当期利益の帰属				
親会社の所有者	533	498	2,052	2,013
非支配持分	-	-	-	-
	533	498	2,052	2,013
包括利益合計の帰属				
親会社の所有者	547	547	1,620	1,644
非支配持分	-	-	-	-
	547	547	1,620	1,644
1 株当たり当期利益(*)				
基本的 1 株当たり利益(ドル)	0.23	0.22	0.90	0.88
希薄化後 1 株当たり利益(ドル)	0.23	0.22	0.90	0.88
1 株当たり収益算定に使用される加重平均株式(*)				
基本的	2,285,620, 957	2,285,610, 64	2,285,616, 60	2,285,610, 264
希薄化後	2,285,750, 316	2,285,667, 52	2,285,718, 94	2,285,642, 940

注:

- 2015年度第4四半期および2015年度通期の無監査の連結中間貸借対照表および中間損益計算書は、2016年4月15日に取締役会にて記録されました。
- 当社の業績に関する概況報告書については www.infosys.com からダウンロードしてください。
- 2015年6月に特別配当株を発行したため、前年度の株式数とEPSを再度記載しました。